

第5学年1組 外国語活動 学習指導案

日時

場所

授業者

1 単元名 He can run fast. She can jump high. (We Can! 1 Unit 5)

2 単元について

本単元では「できること」「できないこと」について表したり尋ねたりする表現や、様々な動作を表す語を扱う。改めて、自分のできることやできないことを考えることは、自分を見つめ直すことであり、それが自己肯定感を高めることにつながる。また、できることやできないことを言葉で伝え合う活動は、互いの理解を深めることにもつながる。第3時では、新たに出会った「できる」「できない」の表現と、既習表現を合わせたスピーチにも取り組む。この活動により、互いのスピーチを聞きながら、自分や友だちの良さを再確認することができ、今後もお互いに高め合っていこうとする態度が育つと考えられる。

単元の後半（第5時）では、初めて三人称に出会う。これまで、一人称と二人称のみで思いを伝え合ってきた児童が、三人称の表現を知ることにより、英語表現できることの幅が広がる。しかし、本単元は5時間の配当時間で学習内容が多岐にわたるため、児童の負担が大きくならないよう、無理なく扱う。なお、三人称については、5年生最後の単元であるUnit9「Who is your hero?」でも扱う。

また、これまでに取り組んできたフォニックスの活動を発展させ、「初頭音」に慣れ親しむ活動にも挑戦する。大文字・小文字の認識が一通りできるようになった児童に、単語を類推しながら読むことの土台となる力をつけさせていきたい。

単元を通し、「聞く」ことを中心とした活動からスタートし、徐々に「話す」活動を取り入れ、無理なく英語を用いた自己表現を身につけさせていきたい。また、「書いてみたい」と思った語や文を「書く」ことにもチャレンジできるような場も設定し、児童の意欲をより一層高めていきたい。

3 児童の実態

<省略>

4 単元の目標

- ・進んで、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・自分や第三者について、できることやできないことを尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- ・言語や人、それぞれに違いがあることに気づく
(言語や文化に関する気づき)
- ・言語にはそれぞれ特色があり、アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気づく。
(言語や文化に関する気づき)

5 単元の指導と評価計画 5時間扱い (本時1/5)

時	目標(◆)と主な活動(【 】、○)*【 】誌面化されている活動	◎評価<方法>
1	<p>◆動作を表す語や、「できる」「できない」という表現を知る。</p> <p>動作を表す語や、「できる」「できない」という表現を知ろう</p> <p>○あいさつ</p> <p>○「ラッキーフリートーク」</p> <p>○Who am I? / What's this? / 最初の音は? (帯活動) ⇒既習表現・アルファベット・アルファベットの音</p> <p>○ Small Talk 「先生のできること・できないこと」</p> <p>○「ポインティングゲーム」</p> <p>○「カードディスティニーゲーム」</p> <p>○「先生方のできることを予想しよう」</p> <p>○絵本の読み聞かせ 「Hi, friends Plus」</p>	<p>◎ [慣] 動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しんでいる。</p> <p><行動観察></p>
2	<p>◆動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうか尋ねたり答えたりする表現を知る。</p> <p>○あいさつ</p> <p>○「ラッキーフリートーク」</p> <p>○Who am I? / What's this? / 最初の音は? (帯活動) ⇒既習表現・アルファベット・アルファベットの音</p> <p>○Small Talk 「○○先生のできること・できないこと」</p> <p>英語を使って、自分ができるところを紹介し合おう</p> <p>【Let's Watch and Think】1「音声や映像から考えよう」</p> <p>【Activity1】:一部変更「できることを予想して伝え合おう」</p> <p>【Let's Watch and Think】2 「映像を見て考えよう」</p> <p>やりとりを見て、できること・できないことを聞き取る。</p> <p>①誌面を見て、事前にどんなやりとりをするのか考える。</p> <p>②全文を視聴 → 止めながら再度視聴</p>	<p>◎ [慣] 動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しんでいる。</p> <p><行動観察></p>
3	<p>◆自分ができるところを入れて「自己紹介スピーチをする」</p> <p>○あいさつ</p> <p>○「ラッキーフリートーク」</p> <p>○Who am I? / What's this? / 最初の音は? (帯活動) ⇒既習表現・アルファベット・アルファベットの音</p> <p>○Small Talk 「スピーチのお手本」</p> <p>「自分ができるところ」を入れて、自己紹介スピーチの交流会をしよう</p> <p>○既習表現の確認</p> <p>My name is ～. I like ～. 等</p> <p>○スピーチ</p> <p>メモ作り・練習・メンバーを変えて何度かスピーチ</p>	<p>◎ [コ] 進んで、自分ができるところやできないことなどを紹介し合おうとしている。</p> <p><行動観察></p> <p>◎ [気] 言語や人、それぞれに違いがあることに気づいている。</p> <p><行動観察・記述分析></p>

<p>4</p>	<p>◆できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○あいさつ</p> <p>○「ラッキーフリートーク」</p> <p>○Who am I? / What's this? / 最初の音は? (帯活動) ⇒既習表現・アルファベット・アルファベットの音</p> <p>○Small Talk 「こんなことできる?」</p> <p>どのようなことができるか友達に尋ねたり、答えたりしよう</p> <p>【Let's Chant】 Can you swim?</p> <p>○インタビュー (別の班の人に聞く)</p> <p>【Activity 1・2】 できることを尋ねよう。</p>	<p>◎ [慣] できることやできないことを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。</p> <p><行動観察・記述分析></p>
<p>5</p>	<p>◆他者ができることについて紹介する表現に慣れ親しむ。</p> <p>○あいさつ</p> <p>○「ラッキーフリートーク」</p> <p>○Who am I? / What's this? / 最初の音は? (帯活動) ⇒既習表現・アルファベット・アルファベットの音</p> <p>他の人ができることを紹介しよう。</p> <p>○「先生ができることを予想しよう」 予想→答え合わせ (三人称との出会い)</p> <p>【Let's listen3】 どの人物か考えよう</p> <p>○「友だちができることを紹介しよう」 (グループ活動) 前時にインタビューしたことをもとに、班で紹介し合う。</p>	<p>◎ [慣] 第三者ができることを紹介する表現に慣れ親しんでいる。</p> <p><行動観察・記述分析></p> <p>◎ [コ] 進んで第三者ができることやできないことについて紹介しようとしている。</p> <p><行動観察></p>

言語や文化に関する気づきの評価である「アルファベットの文字の読み方には、名称のほかに音があることに気づいている」については、毎時間の帯活動において扱う内容のため、児童の行動を観察して評価するものとする。

7 本時の指導計画

(1) 目標

動作を表す語や、「できる」「できない」という表現を知り、聞いて内容がわかる。

(2) 評価規準

動作を表す語や、「できる」「できない」という表現に慣れ親しんでいる。

(外国語への慣れ親しみ)

(3) 展開

児童 (S) の活動	指導者 (T) の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
<p>【Greeting】 S : Hello Mr. . S : It's Thursday. S : It's February 6th.</p>	<p>T : Let's start today's lesson. T : Hello, everyone. T : What day of the week today ? T : What's the date today ? ・気持ちよく挨拶をして始められるようにする。 ・黒板に曜日・月のカードを数枚示し、そこから正しいものを選ぶことで、文字にも意識をむける。</p>	<p>曜日・ 月カード</p>
<p>【Lucky Free Talk】 ・既習表現を使って友だちとやりとりする。</p>	<p>・デモンストレーションで既習表現やリアクションの仕方を想起させる。</p>	<p>表現 シート</p>
<p>【Routine・Warm-up】 帯活動 「Who am I?」ゲーム ・HRTが発音するヒントから、それが誰なのか想像する。 「What's this?」ゲーム 「最初の音は?」</p>	<p>・クラスの児童のアンケートを基にして、英語でクイズを読み上げる。 I like~/I can~/My birthday is~. 等 ・イラストやアルファベットの一部分を隠し、それが何かを当てるゲームをする。Hi, friends Plus ・単語を発音し、その最初の音は何かを当てさせる</p>	<p>個人 シート イラスト カード</p>
<p>【Small talk】 ・予想しながら、HRTの話聞く。</p>	<p>・実際に動いたり、児童にたずねたりしながら話す。 <スモールトークの内容(予定)> T : Look! Look at this. What's this? (リコーダーを見せながら話す。) S: Recorder. T : Yes, that's right. It's a recorder. This is my recorder. I can play the recorder. Can you play the recorder? What's this? (けん玉を見せる。) S : Kendama. T : That's right. Kendama. I can't play kendama well. Can you play Kendama well ? I can play the recorder , but I can't play Kendama.</p>	<p>写真 イラスト けん玉 リコーダー</p>

<p>【Introduction】</p>	<p>・本時のめあてを示す。</p>	
<p>動作を表す語と「できる」「できない」という表現を知ろう</p>		
<p>【Activity】</p> <p>○「ポインティングゲーム」(ペア活動) HRT が読み上げる動作を表す語を聞き取り、プリントにある教科のイラストを指す。</p> <p>○「カードディスティニーゲーム」 ペアに14枚の動作カードを配布する。それを半分ずつ配り、手に持つ。ランダムに動作を表す語を読み上げ(HRT・デジタル教材)、読まれたカードを出していく。先にすべてのカードがなくなった方が勝ち</p> <p>○「フラッシュカード」 HRT が示す「行動を表す語」を発音する。</p> <p>○「先生方ができることを予想しよう」 専科でお世話になっている先生方の自己紹介スピーチを聞き、わかったことを伝え合う。</p> <p>○絵本の読み聞かせ 学習したことを活かして、内容を予想しながら聞く。</p>	<p>・動作を表す語を読み上げる。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 25px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①sing well ②cook ③swim ④jump high ⑤run fast ⑥play soccer ⑦play baseball ⑧play volley ball ⑨play kendama ⑩play table tennis ⑪play the piano ⑫play the recorder ⑬ride a unicycle ⑭do kendo</p> </div> <p>・先生方の自己紹介スピーチを再生する。 I can ～ . I can't ～ . の表現がくり返し登場する。(「～」には上の動作が入る。)</p> <p>・聞き取ったことをメモしながら聞かせる。</p> <p>・Hi friends Plus の映像資料を活用する。 ・映像資料を活用して、読み聞かせをする。部分的に繰り返して言うなどして児童の理解を助ける。</p>	<p>動作 カード</p> <p>ワーク シート VTR</p> <p>デジタル 教材</p>
<p>【Reflection】</p> <p>・活動を振り返り、気づきや思ったことを振り返りカードに書く。 (早く終わった児童は、裏面にある「書く」活動に取り組む)</p>	<p>・活動を振り返らせ、今日のめあてが達成できたか振り返りシートに書かせる。</p> <p>・活動でよかったところを具体的に示し、次への意欲につなげる。</p>	<p>ふり 返し カード</p>
<p>【Greeting】</p> <p>S : Goodbye Mr. .</p>	<p>・次時の予告をする。</p> <p>T : That's all for today. T : Goodbye everyone. T : See you next time.</p>	